

⑦ ボランティアが支えるコミュニティカフェで元気づくり「ポストの数ほどコミュニティカフェを」

共感と受容の仲間づくり

コミュニティカフェ「さくら茶屋にししば」を始めたのは、地域の高齢化が進み、子供が巣立って老夫婦二人や単身で寂しく暮らしている人も多くなったので、人と人がお互いに支え合うことが大切だと思ったことがきっかけです。そのため、拠点、「いつでもだれでもが気軽に来られる場所」としてオープンし、地域の人たちが気軽に食事を楽しみながらおしゃべりをするような場所にしてきました。

最初地域の拠点をづくりたいと考えていた時に、横浜には「ヨコハマ市民まち普請事業」というハード整備の支援制度があることを知って、これを受ければつくれると考え、急遽応募しました。これまでも月2回の食事会などがありました。毎日来られる場所が必要だと思っただけで、これをボランティアで運営しようと思ったので、知っている人や友達に声をかけてみたら、80名くらい集まりました。

た。そうしたら、ボランティアの人同士がまず楽しく交流できるようになってきて、一つの「生きがい」になっていくんじゃないかと思えますね。地域の人も、さくら茶屋に来て一緒に食事をする中で友達になった人も多かったです。仲良くなると、さくら茶屋を離れて観劇や旅行に行ったり。男性の方もここで食事をして旅行の相談をして、出かけていたりしているようです。定年後の友達作り、男性はなかなか難しいですから、すごく良かったなあと思えます。

ボランティアの人たちに対しては、まず一番に相手を信頼します。次に任せて、任せたら文句を言いません。三番目に感謝。感謝の言葉。これが大事です。私は小学校で教師をしていたので、無意識に自然とそういうことができるんです。人の良いところや得意なところを探し、その部分を最大限に發揮してもらおうにしています。

あと、仲間づくりは共感と受容ですね。何でもすぐに反対するのではなく、まず最初に「あー、本当にそうだよねえ、大変だよねえ」と言うように、楽になります。いきなり「あなたおかしいじゃない」と言ったらやる気をなくしますよ。「素晴らしい提案だね」といえばやる気が出ます。

その人にとってハッピーであるという確信

ボランティアをどうやって発掘するか、ということについては：そうですね、人はだれかの役に立ちたいと思っているんじゃないでしょうか。10人のうち9人はそうなんじゃないかと思えます。なので、「それをやるのがその人にとってハッピーである」という確信を持って声をかけることが大切です。「あなたの人生にとってプラスになる」ということを言います。みなさん「誘ってもらってよかった」と言ってくれますよ。60を過ぎるとなかなか新しい友達もできませんから、一つの活動を通して新たな友

達ができる。活動に参加したことでハッピーになったと思えます。

あと、若い人は考え方が新鮮で、教えられることもあり。若い人に「私たちの意見も聞いてくれてうれしい」と言われますが、私はいつも「そんな風に考えるのか、すごいなあ」と思って聞いています。年配の方も若い人もお互いに学び合うことが大事です。

リーダーは人の倍働く

うまくいっているコミュニティカフェというのは、地域の人の中で支持されて、存在意義がきちんとあって、自分たちのやる気にもつながっています。そんな方向にもっていくためにはリーダーが必要ですね。

行政はリーダーを見つけるのに依拠するところがなく、自治会や公的委員さんにすぐ声をかけてしまいがちです。ね。そういう人たちも重要ですけど、公的なことで忙しいから全面的には任せられませ



岡本 溢子さん

2010年、金沢区の西柴団地で誰もが気軽に集まり、多世代の交流ができる地域の拠点として「コミュニティカフェ」さくら茶屋をオープン。現在はNPO法人さくら茶屋にししばの理事長を務め、さくら茶屋に加え「さくらカフェ」、「ほっとサロン」の3拠点を運営している。

聞き手

山村 拓末

金沢区地域振興課

魚屋 伸

市民局市民情報室

末岡 雅幸

金沢区地域振興課

岩屋 亮太郎

金沢区地域振興課区民活動支援担当係長

ん。ですから、何の役も持つていない普通のおばさん、普通のおじさん。私の考えではそういった人たちが大事なんです。私もいろいろやっています。たとえ、今金沢区でやっている「金沢区地域づくり大

ん。身をもって働くというところが大事だと思います。頼まれたらNOとは言いませんし、出てきているからこそ分かることもあります。全体の動きや人の気持ちをキャッチできますから。

ストの数ほどコミュニティカフェを」というのが私の標語で、一つの拠点に50万なり100万なり助成金を出していいのではないかと思っています。私たちが家賃を稼ぐのに必死でした。私も色々なところを見ていて、聞きに行ったりもしますけれど、うまく

とを目的に始めましたが、高齢化が進んでここまで来られない人がだんだん増えていきます。なので、お弁当の配達なども必要になってくると考えています。それがさくら茶屋の経営安定にも繋がりますし、それを配達する人として

だから、そんなに心配はしていません。

【インタビューを終えて】
自身の発想を迅速に具現化しようとする思い切りの良さや行動力、自分と違う考え方や新しい風を受容できる柔軟性や協調性、そして人生経験に基づく感性が「コミュニティデザイナー」の重要な要素だと感じました。(山村)

岡本さんには、私の学生時代に卒業論文の執筆に御協力をいただき、その時の御縁で今回のインタビューに参加させていただきました。「普通の人」の潜在能力を見抜き、それを活かすことが成功の秘訣ではと感じました。(魚屋)

自然と周囲の方の得意とする気を引き出せる方が「コミュニティデザイナー」なのかもしれないですね。地域のつながりの場であり、「共感と受容」が根付いたさくら茶屋の凄さを改めて感じました。(末岡)

さくら茶屋のボランティアの皆さんの笑顔を見ると、岡本さんたちの活動が「地域の暮らしやすさや魅力を高めることに成功」していると感じます。今回の特集記事が新たな「コミュニティデザイナー」の生まれる一助になればよいと思います。(岩屋)



ボランティアさんとの調理風景

リーダーとして大事なことは、人の倍働くことです。私は、さくら茶屋に出てくる日が一番多いと思うんですよ。私はボランティアの人たちに「家庭が一番大事にしてください。自分の体を一番大事にしてください」と言っています。病気になるったり、家庭の事情があったりして休むのは仕方ないことです。その時は私が替わりに出て働きます。そうすると、私に何かあったときはみんながやってくれます。リーダーは人より倍働かないと周りが付いてきませ

「あつたらいいな」と思っている人はたくさんいると思いますが、それを自分でやるう、となるとなかなかエネルギーがいりますよね。私は昔から何かやるのが好きだったんです。学校でもやりたいと思っただけはみんな実践して、校長に睨まれたりもしましたけどね(笑)。職員会議で色々なことを提案して：結構やりたがり屋でした。反対に遭おうとなんだろうと、思いついたことを何でも形にしてみました。

私は横浜市が何でもかんでも地域住民に投げるのは気に入りませんが、地域住民が自ら動くような仕掛けを作っていくことは大事です。地域の人たちはみんなそういう潜在能力を持っていると思うんです。

行政でやれることは限られているとは思いますが、「ポストの数ほどコミュニティカフェを」というのが私の標語で、一つの拠点に50万なり100万なり助成金を出していいのではないかと思っています。私たちが家賃を稼ぐのに必死でした。私も色々なところを見ていて、聞きに行ったりもしますけれど、うまく

5周年を迎えて、みんな歳を取ってきまして、新しい課題が生まれてきています。たとえば認知症の問題です。今年から新しい事業として認知症カフェというものを始めました。毎月1回やりま

また、これは検計中ですが、私たちがみなさんがここで食事をして交流するこ

西柴団地は若い世代が出て行って、高齢化率も40%を超えています。これからの担い手のことを考えると：厳しいですよ、どんどん高齢化していきますから。でも、まだ若い人が10人ほどいるんです。最終的には、ダメになったらやめればいいと思っていますが、そんなに気負いはありません。でも、意外と続くのではないかと思いますね。

人はいなくなると必ず次の人が現れますから大丈夫です。